

旅客航空会社を売却、貨物事業に集中

■ ATSG

米エア・トランスポート・サービス・グループ (ATSG) はこのほど、旅客チャーターやACMI事業を手掛ける子会社オムニエア・インターナショナル (以下、オムニエア) を、米OAIホールディングス (HD) に売却する契約を締結したと発表した。売却額は非公表。旅客航空会社をグループから切り離し、航空貨物輸送や貨物機リース、航空機整備、物流などの中核事業に経営資源を集中する。

売却完了後、ATSG傘下の航空会社は、貨物航空会社のABXエアとエア・トランスポート・インターナショナル (ATI) の2社のみとなる。貨物機リースを手掛けるカーゴ・エアクラフト・マネジメント (CAM) や航空機整備、物流などの関連事業と合わせ、グループの事業を航空貨物分野に集中する。

ATSGのグレッグ・メイズ社長兼最高経営責任者 (CEO) は、航空貨物分野に大きな事業機会があるとして、

以前からオムニエアの戦略的選択肢を検討してきたと説明。今回の売却により、航空貨物市場と関連顧客への経営資源の投入を一段と強化している。

オムニエアは1993年設立。米オクラホマ州タルサを拠点に、B777-200ER型機、B767-300ER型機、B767-200ER型機を使用し、米政府や同盟国政府、航空会社、チャーター顧客向けに世界80カ国超で旅客輸送を展開する。航空会社向けの

ACMIウェットリースのほか、新規航空会社の立ち上げ支援、路線開発、航空機管理なども手掛けている。

オムニエアのOAIHDへの売却は、当局の承認などを経て、2026年第4四半期または27年初めに完了する見通し。OAIHDはオムニエアの旅客ACMI、チャーター事業を基盤に、長期的な事業拡大を図っている。

ATSGは米オハイオ州ウィルミントンに本社を置き、貨物機リース、航空貨物輸送、整備、地上支援などを展開する航空サービス会社。B767型貨物改造機では世界最大級の保有・運航規模を持つ。25年4月には、米投資会社ストーンピークによる買収が完了した。企業価値は約31億ドル (約4900億円) で、買収に伴い非上場化した。